

令和2年度教育事業
自然体験活動指導者養成研修
(NEAL リーダー)

1. ねらい

教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担う青少年教育施設ボランティアを育成するとともに、全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子どもの発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者 (NEAL リーダー) を養成する。

2. 実施日

9月2日 (水) ~9月4日 (金) 2泊3日

3. 対象者

ボランティア活動や青少年教育、自然体験活動に興味がある16歳以上の方々

4. 参加者 / 募集定員

23名 / 20名

5. プログラム (要約)

NEALリーダークリキュラムに則り、自然体験活動の基礎基本を学ぶ18時間の講習を行った。参加者は県内の大学生を中心に、大阪府 滋賀県 京都府 三重県 兵庫県 遠く静岡県や埼玉県などから民間団体等の指導者、大学生が参加した。

<講習会のスケジュール>

●9月2日 (水) 1日目

「開講式」

「オリエンテーション・ガイダンス」

「青少年教育における体験活動」、

「対象者理解」 野口和行氏 (慶應義塾大学教授)

「自然体験活動の指導」 蓬田高正氏 (天理大学講師)

●9月3日 (木) 2日目

「自然体験活動の特質」 増田直広氏 (キープ協会主席研究員)

「自然体験活動の技術」 高瀬宏樹 (国立曽爾青少年自然の家)

●9月4日 (金) 3日目

「自然体験活動の安全管理」 甲斐知彦 (関西学院大学教授)

「3日間のふりかえり」

「修了試験」

9月2日 (水) 1日目

所長のあいさつで研修会がスタートした。今回の講習のねらいとNEALの指導者養成制度について説明が行われた。

アイスブレイクとして、A4用紙1枚を使って、「自分自身がはまっているもの・こと」を書いて自己紹介をした。ソーシャル・ディスタンスに気を付けながら、交流をおこなうことができた。



野口和行氏 (慶應義塾大学教授) による「青少年教育における体験活動」では、自分自身の子どもの頃の体験を洗い出し、その後、現代の子供たちとの比較をし、課題について協議をした。参加者一人一人が、新型コロナウイルス感染症拡大により体験の機会が減少していることに危機感を感じるようになっていた。

「対象者理解」では、野口氏が主宰する障がいのある子どものキャンプの事例から、どのようにアプローチするかを小グループでの話し合いを通して検討した。また、情報を収集し分析することの大切さに加え、「個人情報取り扱い」についても述べられていた。

蓬田高正氏 (天理大学講師) による「自然体験活動の指導」では、「こんな指導者になりたい」について協議した。各グループから、協議結果が発表されると、知識や技術のほか、人間性が大切というコメントが多く出てきて、改めてその大切さを認識したようである。

9月3日 (木) 2日目

増田直広氏 (キープ協会主席研究員) による「自然体験活動の特質」では、まずSDGs (持続可能な開発目標) を取り上げた。



持続可能な社会とは「人と人との関係がいい形で持

続する社会」であるという話に多くの共感があった。また、「環境問題の原因は人と人の関係が壊れることから始まる」という言葉が印象的だったようである。後半はフィールドに出て、「見る」という観点を大切にして、自然環境をどのようにプログラム化していくか体験しながら学んだ。「葉っぱ」について大きさに注目したり、形状だったり、色だったり、様々な特徴に目を向けて、遊びにしていくなかで受講者は感心しきりであった。



「自然体験活動の技術」では、基本的なスキルとなる「刃物」と「火」を中心に扱った。まず室内でナイフを使って鉛筆を削ることから講習を始めた。なかなか思い通りに削れない受講者もいた。「できるつもりになっている」こともあり、「指導するためにはまず自分自身が正しくできること」をこのコマのねらいとして講習を進めた。

野外炊事では全作業工程を経験することができるように、自分の食事を自分で作ることにした。薪をどう組めば火は起きるのか、美味しく作るにはどうしたらよいか、安全に行うにはどう指導するのがいいののか一人一人が考え、参加者同時で相談し、共有しながら取り組んでいるのが印象的であった。



9月4日(木) 3日目

甲斐知彦氏(関西学院大学教授)による「自然体験活動の安全管理」は、「安全管理」と「応急処置」についての講義となった。

「安全管理」の講義では、東日本大震災時のディズニーランドの対応から、どのように有事に備えておく

か、またもしもの際にどのようにマネジメントするのかという、「リスクマネジメント」の考え方について話があった。その後、具体的な対応について様々な事例をあげて研修を行った。



「応急処置」の講義では、症状を悪化させないように、医療機関に繋ぐことをポイントに話が進んだ。野外活動の場面を描いた絵(KYT)から危険な場面を見つけたり、危険の度合いを表にして並べたり、虫刺されやケガなどの対応について確認するなどした。

改めて安全管理を認識し、自然体験活動の土台が安全であることを確認する機会となった。

6. まとめ

今回も、全国レベルで活躍している講師陣から、最新の知見を学ぶ研修となった。受講生からは「自然体験活動は社会性、人間性の成長に大きく関わっていることを知り、子ども達には欠かせない学びだと深く感じた」や「自然体験活動の楽しさ、安全性の大切さを学べた。初心者にもわかりやすく、双方向的な講義で学びを深めることができた。」等という反応があった。また、「指導者として指導する場合の注意点などをグループで協議したことで、今まで見えていなかった部分に気付くことができた。」という声も聞かれた。

学生だけでなく、民間の自然体験活動団体のスタッフなど、様々なバックボーンを持った方々同士の活発なやりとりも講習を充実させた。今後も受講者の学びを深めることができるようフォローしていきたい。

(企画指導専門職 森本 貴仁)